国際医療福祉大学大学院 大熊由紀子教授 乃木坂スクール 「#06 前例を超える・前例を創る~その様々な挑戦」

「看護や医療を漫画で深める」 水谷緑

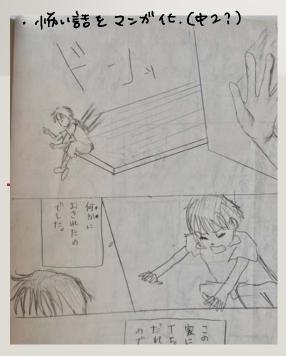
自己紹介

- 1984年 神奈川県生まれ 2歳の子ども、夫、うさぎと暮らす
- 2014年 コミックエッセイプチ大賞B賞を受賞し「あたふた研修医やってます」でデビュー。弟がモデル。
- 2016年 勤めていた広告制作会社を辞めて漫画を仕事に生活
- (病歴:2016年初期乳がん、2010年父が膵臓癌で亡くなったことをきっかけに精神科や緩和ケアに興味を持つ)
- 2017年「精神科ナースになったわけ」
- 2021年「まんが オープンダイアローグ」(斎藤環)漫画担当
- 現在は月刊スピリッツで「こころのナース夜野さん」を連載中



子どもの頃から漫画は好き

小学生の頃、友達と交換で漫画を書いたり、友達から聞いた怖い話を漫画にしたりしていた。





医療に興味を持ったきっかけ(1)

• 弟が研修医で、変な患者さんの話を聞くのが面白く、それを漫画にして応募。



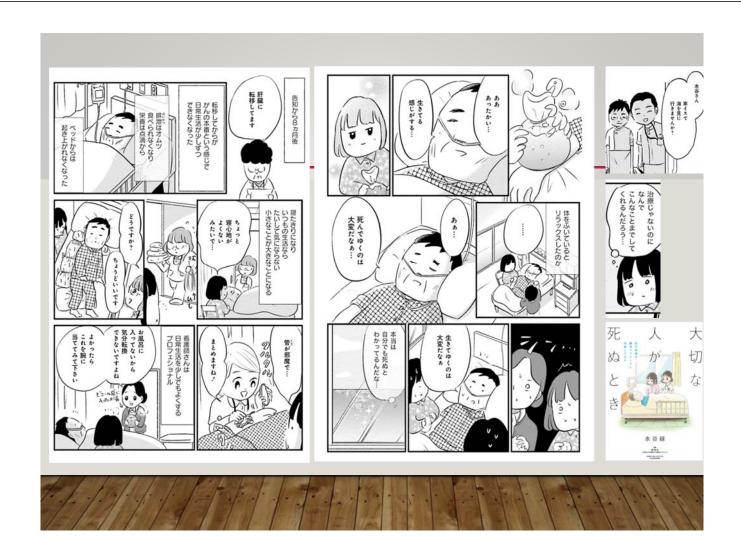
・献体希望者との交流会で出土いるのは、人形を、





医療に興味を持ったきっかけ②

父が2010年に膵臓癌で亡くなる。闘病中に、看護師さんの 細かな技や、心に注目してくれることに興味を持った。



精神科に興味を持ったきっかけ

• 父が亡くなった後に、自分はおかしいのでは?心の病では?心の病を知りたいと思った。





精神科の取材のハードルの高さ

- 「精神科ナースになったわけ」を書くときは取材先が見つからなくて手こずった。周りからは精神科を漫画にするなんて無理だろうと言われる。都内の病院はほぼ全て取材NG。ツイッターで募集し知り合った看護師さんに情報をもらいながら少しずつ取材。
- 約6年でノート30冊くらい取材
- 聞くのは難しい

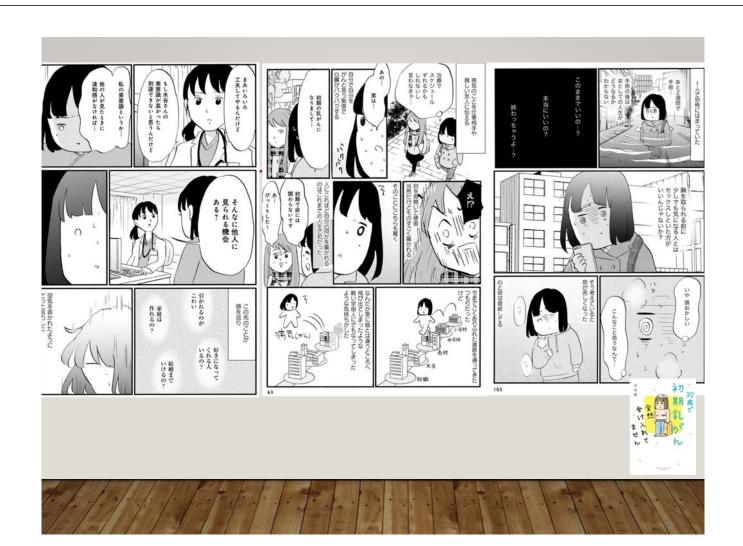


精神科の取材をしてわかったこと ~ 病まない為に大事なこと~

- 感情の言語化、寝る、体を動かす
- 挨拶、お礼、謝罪をする(人間関係が途切れない)

自分が病気になる

• 32歳でステージ0の乳がんと診断。部分切除と放射線治療をした。



自分が病気になってわかったこと

- レールを外れた感覚
- 医療者に医学的な情報を告げられても、自分の中で希望 は持ってていい
- 出産、育児の中でだんだん病気をした感覚は無くなっているが欠落した感覚はある
- 一方で「みんな色々あるよね」的な感覚にもなる

漫画制作の流れ

- ①テーマを探す(自分が知りたいこと、世の中的に需要がありそうなこと)
- ②取材(専門家、当事者それぞれ)
- ③書きたいことの洗い出し(感動したこと、意外だったこと)
- ④プロット(だいたいの流れ、シーンごとの各キャラクターの行動を考える)
- ⑤ネーム(小さいネーム、大きいネーム)
- ⑥編集者への提出、修正
- ⑦作画(下書き、清書、アシスタントさんに背景やトーン貼りを依頼・仕上げ)
- ⑧納品

①テーマを探す

- 自分が生活の中で疑問に思うこと(今は、女性の暴力や、 男性の育児鬱など)
- 世の中の人が知ったら役に立つかな?と思うこと
- 医療者との話の中でたまたま知ったこと
- 取材の中で自分が思ったこと(精神にも寿命がある)

②取材 ~聞くときに大事にしていること~

- 映像で思い浮かべながら聞く
- できるだけエピソードを聞く(出来事と感情)
- 自分の話もして相手の警戒心をなるべく取る
- いい話ばかりにならないようにする。 質問例「手強かった患者さん の話聞かせてください」
- 違和感をスルーしないで質問にする
- 先入観や願望があるとあまり聞けない
- 当事者独自の言葉、価値観が面白い
- 感動できればオッケー!

当事者独自の言葉、価値観が面白い

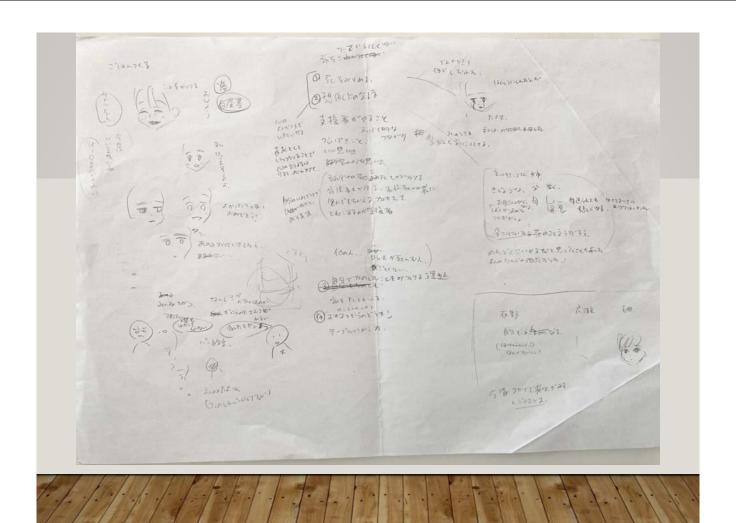
医学的な正解だけでなく 自分が感じたことを出す



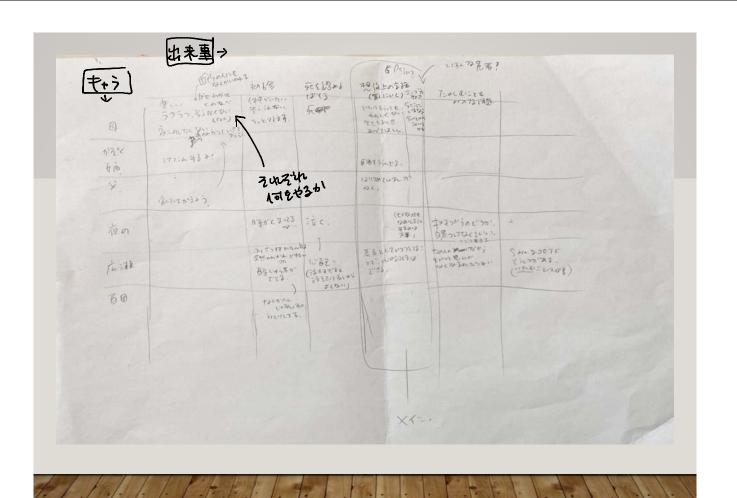


③まずは、書きたいこと、書きたい絵をバーっと書く

• 起承転結など難しいことは考えず、とりあえず、役に立つ 情報や、書きたい表情やコマを気ままに書き出す。感動し たこと、意外だったこと。



④プロット(だいたいの流れ、シーンごと の各キャラクターの行動を考える)



⑤ネーム

- よく言われること「パンツを脱ぐ」(恥を出す)
- 自分の違和感を見逃さないで何度も考える(綺麗事になってないか)
- 読者が楽しめるものか。
- 伝わるかどうか。感情と状況をセットで書く

ネームの前に心を整える…

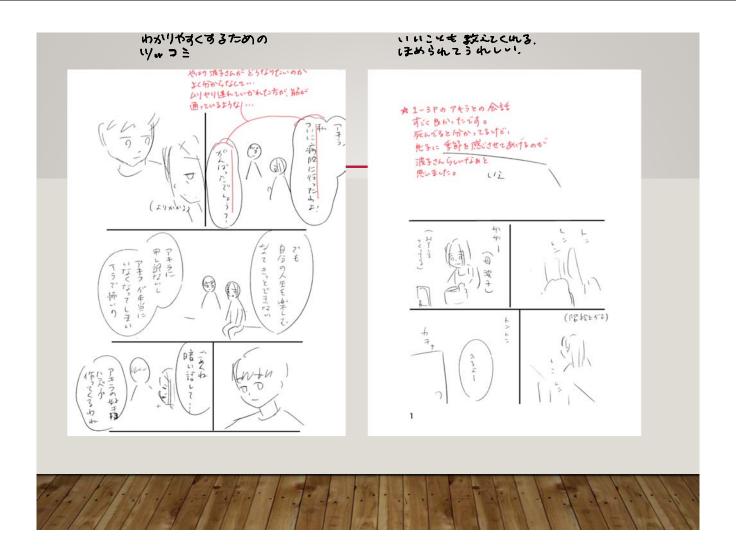
• すごく大変だけど、楽しい作業。気が重いので好きな喫茶 店に行って気合を入れてからやったりする。



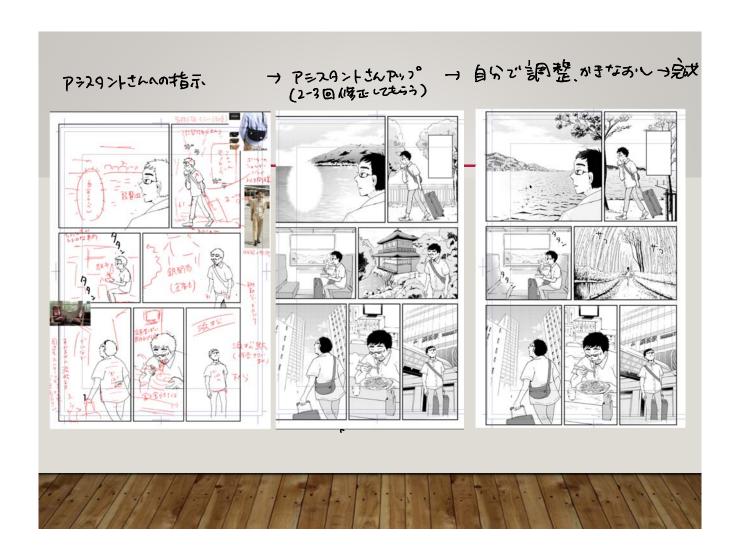


⑥編集者への提出、修正

ネームは命を使って作る感じなので、一番へこむ。褒められるとめっちゃ嬉しい。漫画的な見せ方も教えてもらうことも。編集者の要望を言葉のままに受け取って反映しすぎると自分を失して後から迷走するので、塩梅というか、自分を保ちながら要望を咀嚼するのが課題。









売り上げが重要…

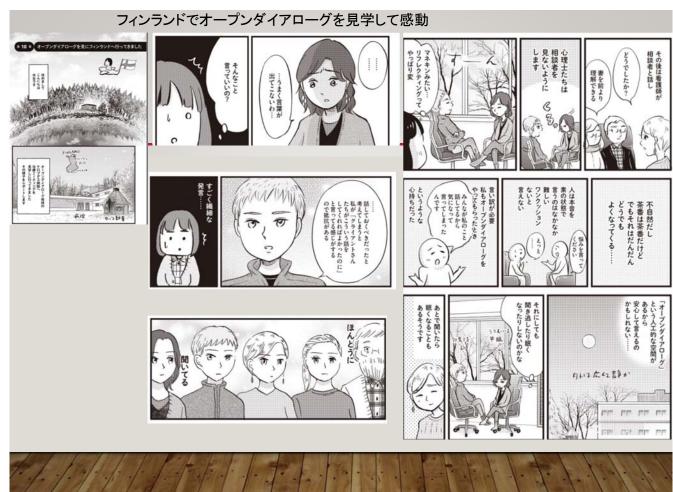
- 漫画の場合は、読者がいないと続かない。打ち切りになったり、その出版社から依頼が来なくなる。自分が生活できなくなる。
- 「エンタメ」である。 読者を楽しませる、役に立つかを大事に。 本当に人が興味を持つのはどこか?正義感や社会貢献とは違う軸。
- 売れない場合は反省。(構成がわかりづらかったか?新鮮味がなかったか?自分をなくしすぎたか?絵がダメだったか?)

オープンダイアローグに興味を持ったきっかけ



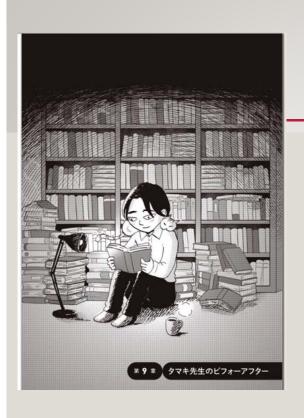
- 医学書院の白石さん、石川さんに教えてもらいイベントに。リフレクティングが変だなと興味を持つ
- よくわからないので実際に夫婦でやってもらって感動
- フィンランドに行って、環境や現地の医療者にも感動
- 聞いてもらうだけで癒されるのが不思議





事例や斎藤さんの話の制作過程

- 周りの医療者の方に話を聞く
- 診察記録を見せていただく
- 斎藤さんにメールや対面で質問
- 実際にオープンダイアローグを見学
- 当事者の方に話を聞く
- 斎藤さんがどんな方なのか、一緒に働く医療者、先輩、同僚 の方などに聞く



周りのちの視点









135 まんが編 第9章 タマキ先生のピフォーアフター

医療、看護の面白いと思うこと

- 人の生き死にに関わるので人間ドラマがある。
- 人間の情けないところ、ダメなところが丸出しになる。
- 人間の身体のすごさを知れる。
- 想像を超えた価値観を知れる。
- 看護(ケア?)は根源的な人間関係。育児にも似てる。心 への注目の仕方がわかる。自分の生活にも応用できる。

今後

- 「こころのナース夜野さん」はあと2巻くらい?
- 親が精神心疾患の親を持つ子どもをテーマにした漫画の連載予定
- その他、医療とは別のテーマの漫画も準備予定